

## 2025 日本庭園～メンテナンスと新しい試み～

1月の降雪を乗り越え、花盛りを迎えているハーマンパーク日本庭園に、岩崎造園の岩崎博司・太樹庭師親子が、2月27日から3月11日の日程でいらしてくださいました。お二人は、2007年からコロナ禍の3年間を除き、日本庭園のメンテナンス作業に毎年携わり、今回で15回目となります。日本庭園に日本人の手が入らなくなったことで日本庭園らしさを失いつつあることが危惧されたため、2007年から日本チーム(日本庭園デザイナー、日本人庭師)の招へいが始まり、現在まで続いています。この間、日本庭園は池や排水溝の改修などが行われ、今まで植えられていた日本には存在しない木を、桜や黒松などの日本の木に植え替えて、日本庭園の面影を取り戻しながら、ハーマンパーク管理団体 Hermann Park Conservancy (以下HPC)と共に歩んできました。

そのHPC発足から21年間Presidentとして尽力して下さったDoreen Stoller氏が、昨年引退しました。Stoller氏は、日本庭園に日本人庭師を毎年招へいする重要性をよく理解し、岩崎親子とも親交を深めました。後任として2024年8月からPresidentに就任したCara Lambright氏は、過去にはNew Orleans City ParkやヒューストンのMemorial ParkでもPresidentを務めた経験があります。昨年、ハーマンパーク内にCommonsという巨大な子供エリアが開園し、今後の開発・整備のために人員も増え、規模が大きくなって

きたHPCは、Lambright氏の指揮下で更なる発展が期待されています。

Lambright氏は、岩崎親子とは初対面でしたので、岩崎氏が日本庭園の歴史について説明したり、過去の写真なども共有しながら、日本庭園のあり方と今後の方向性についての会議を重ねました。今年は、日本庭園のことを最もよく知っている岩崎親子と、日本庭園のこれからの重要な役割を担うHPCトップによる十分な話し合いができた重要な年となりました。

一方、庭園での作業は黒松と百日紅の剪定が中心でした。黒松と百日紅の両方が少し病気になっているため、対処法なども現地職員の教へて頂きました。

昼食の差し入れや夕食の設宴にご協力いただきました商工会メンバー各社に厚く御礼申し上げます。(日本庭園諮問委員会 杉本・蛭子・佐藤)

今回のご協力先(敬称略 順不同)

在ヒューストン日本国総領館・ヒューストン日本商工会・ヒューストン日米協会・グレイターヒューストン日本人会・米国三菱商事・米国三井物産・米国三菱重工業・クラレアメリカ・ダイキン コンフォート テクノロジー ノースアメリカ・Marley Lott・Betty and Jim Key・八木謙一弁護士・木村原弁護士・斎藤明美 ティングリーフ奈那子

▼珍しい雪化粧の日本庭園 (1月21日 ハーマンパーク撮影)



染師の廣瀬雄一氏による実演と、説明をするSteve Beimel氏(右)



彫師の丸田瑛子氏

### Yotsuba Circleのご紹介

Yotsuba CircleとはHPCが運営する日本庭園を支援する法人・個人のためのグループです。名前とロゴにある四つ葉は、①庭園の創設と継続的な手入れを担ってきた地域社会②姉妹都市の千葉市③ヒューストン市④HPC、という、庭園に不可欠な四つの組織を表しています。HPCは非営利団体であり、法人・市民からの寄付金を主な財源としており、日本庭園も例外ではありません。日本庭園は、古くから受け継がれてきた伝統を守りつつも、時代の変化と共に進化し続けます。Yotsuba Circleへの寄付金は、その維持管理に欠かせない大切な資金源となります。

ヒューストン市民の憩いの場として親しまれ、日本の伝統美を伝える日本庭園の永続的な発展のために、皆様のご支援をお願い申し上げます。Yotsuba Circleへの寄付方法および特典は[こちらのリンク](#)をご参照ください。

### 伊勢型紙イベント

3月23日(日)、日本庭園初の一般公開のイベントが開催されました。2月からアジアソサエティで展示されている伊勢型紙の彫師である那須恵子氏と丸田瑛子氏、その型紙を使って布を染める染師である廣瀬雄一氏が、3月19日から24日の日程でヒューストンに訪れた機会をとらえ、日本庭園で実演を行っていただいたものです。また、日本在住のアメリカ人で、日本の伝統工芸を21世紀に再生する目的で創設された「JapanCraft21」の創設理事であるSteve Beimel氏が、通訳兼講師として同行しました。このイベントは日米協会を中心にUSJCのサポートで、斎藤明美氏にスポンサーとして全ての費用を負担していただいで実現したものです。

当日は、日本庭園の四阿の隣にある空き地にテントを張り、彫り用の机と染用の台を置いて講演・実演を行いました。雨が降ったり止んだりのお天気となりましたが、午前11時から午後2時まで、5回の講演には、その日たまたま日本庭園を訪れたという人たちが足を止め、実演が始まると、見学者は職人たちをぐるりと取り囲んで、興味深そうに日本の伝統芸の手さばきに見入っていました。